

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	現況、改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか			○	必ずしも十分なスペースとは考えていません。外出活動等で、ある程度、緩和するよう努力しています。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			支援度の高い児童については、概ね1対1に近い配置をしています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		車いす児童も対応可能な環境になっていますが、現在利用している児童の行動特性から車いす使用の身体障害の児童の受入は難しい状況になっています。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○		非常勤職員が多い為、児童の直接処遇時間以外の時間が設けにくい状況です。週に1回、従来の出勤時間を前倒しして、ミニ会議を実施しています。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		アンケートは実施していますが、必ずしも全ての要望（開所日等）には応えられてはおりません。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			公開しています。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	実施していません。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		外部研修については全国放課後連絡会等の主催の学習会、講演会等に参加しています。非常勤職員が多く、時間外については任意事項になってはいますが、参加する職員が増えています。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			利用前に、見学、相談の上、アセスメント及び個別支援計画書を作成しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		アセスメントツールが独り歩きする事に、若干、懸念しています。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○		非常勤職員が多く常勤職員と打合せする機会が十分とは言えませんが、回覧等で共有化できるよう工夫はしています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		利用児童が自分のペースで過ごすのが基本なので、「～療法」等のプログラムは、あえては組んでいません。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか			○	現在、平日のみの開所としています。週末開業すると職員の勤務ローテーションが厳しくなり、結果的に平日の支援の質の低下を懸念しています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		○		⑫での回答の通り。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			その日に出勤する職員では、必ず打合せを行っています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		非常勤職員は出勤日が個人で異なるので、毎週のミニ会議や毎月定例の会議で共有化しています。また、引き継ぎノートにて、共有化を図っています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		欠かさず記録していますが、内容については、技術的な事も含めて、改善の余地はあると考えています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			半年に1回は実施しています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			おおむね行っています。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか			○	相談支援事業所に計画立案を頼んでいる保護者が1名です。(当該市が必須事項としていません)
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			毎月、下校時刻に関するプリントを保護者に提出してもらっています。学級のお子さんは、学校が発行する予定表にてやり取りして、確認しています。
	22	医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	該当児童の利用はありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			○	知能・心理検査等の資料等の共有は、保護者の方々を通じて提供をお願いしています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			まだ、該当ケースはありませんが、当法人には、生活介護事業所があり、仮にその事業所の利用を希望するケースがあれば、スムーズな提供が可能であると思われます。また、当法人の基本的な考え方として、学齢期から社会人に繋ぐ役割を重視しています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	日野市発達・教育支援センター エールと子ども家庭支援センターと連携して、個別にケースに即したカンファレンス等を実施しました。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	現在は、実施していないが将来的にはプログラムとして検討したいと考えています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	市からの呼びかけがありません。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡帳にて可能な限り詳細を記載するようにしています。また、送迎時の引き渡しの際に、他害行為の発生等、ネガティブな事案ほど詳しくお伝えするようにしています。必要があれば個人面談の場を設けています。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	法人内の成人事業所のご家族の協力を得て、「先輩お母さんとの座談会」を企画しました。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約書締結時に、1時間の枠を設定して説明しています。また、必要な情報については閲覧用のファイルを常時、回覧できるようにしています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか			○	真摯に受け止めているつもりですが、適切であるかどうかは受け手の保護者の方々のご判断と考えています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	年に1回、実施しています。保護者間の連携については個人情報の保護の側面もあり、デリケートな課題として捉えています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか			○	平成30年度につきましては、苦情等はありませんでした。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月、活動の様子については写真を掲載した通信を発行しています。1日外出活動については、事前にプリント等を配布して、任意参加にしています。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			児童の写真等については、第3者等に知られないようぼかし等の画像加工を必須としています。就業規則で全職員、退職後も含めて守秘義務は徹底しております。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか			○	日々の業務の中で、職員間で協議し、検討しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	その機会が設けられておりません。

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		災害等緊急マニュアルを作成しています。重要事項説明書その旨記載して、説明しています。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年に1回、実施しています。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止法等の周知や職員セルフチェックを実施しています。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		契約書に明記しています。また、契約締結に詳細を伝えています。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		以前にアナフィラキシーショックのある児童が利用していました。(現在は転居)担当医ともカンファレンスを行いエピペン(エピネフリン)等の使用や救急車の手配等、緊急時対応マニュアルを作成し、各関係機関とも連携して対応していました。結果、当事業所の利用中にアレルギー症状が発生した事はありませんでした。
④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		日々の会議や打ち合わせで共有していますが、事例集としては作成していません。